

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	新編 新しい書写（2 東書）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○児童が主体的に課題発見・課題解決できる学習の流れになっている。</p> <p>○低学年では、字形・筆順、中学年では、字形の整え方、高学年で配列・点画のつながりの学習を設定して、学習指導要領に忠実に対応している。</p>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉</p> <p>○巻頭には、姿勢の写真を大きく示し、書写の時間だけではなく、普段の姿勢も整えられるように工夫がされている。</p> <p>○へんやつくりなどわかりやすいように、色分けをしている。</p> <p>○練習用枠に中心線を入れることにより、文字の中心を意識させている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等の育成〉</p> <p>○「調べよう」で、調べたり考えたりする活動から入り、「たしかめよう」で実践し、「広げよう」でこの学習がどう発展していくのか見通せるようになっている。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む工夫〉</p> <p>○毛筆教材の左側にインデックスがあり、既習事項や参照ページがあるので、児童が文字に興味関心を持って主体的に学習に取り組める。</p> <p>○「生活に広げよう」のコーナーがあり、書写で学習したことを児童が主体的にいかし、文字を楽しく書かせる工夫がある。</p> <p>○「書きぞめをしよう」では、自分でめあてを選択できるので、主体的に学習に取り組むことができる。</p> <p>〈硬筆と毛筆との関連〉</p> <p>○「広げよう」があり、毛筆だけではなく学習のまとめとして硬筆で書く場面が毎回設置されている。</p> <p>〈各領域や他教科との関わり〉</p> <p>○国語だけではなく、関連している教科にはマークが付いているので、書写の時間で学習したことが他の時間でもいかされるようになっている。</p> <p>〈話題・題材の選定〉</p> <p>○修学旅行、社会科新聞、ローマ字など、児童が他の教科で学習していることを題材としている。</p>
資料	<p>○「付録」には、「ひらがな・カタカナ・ローマ字の表」が載っている。穂先の通り道が分かるように朱墨を使っている。間違いやすい文字には、筆順が朱書きしてある。</p> <p>○前学年で学習した漢字と現学年で学習する漢字が毛筆体で掲載されている。</p>
表記表現	<p>○毛筆の入門期では、始筆「トン」送筆「スー」終筆「ピタッ」など、運筆や筆圧などを擬音語やイラストを使ってわかりやすく説明している。</p> <p>○用具の名前、準備や後片付けなどを、写真を使ってわかりやすく説明している。</p>
総括	<p>○ワイドな紙面構成になっているので、文字が大きく見やすくなっている。また、書き込める練習用枠が豊富なため、たくさん練習ができる。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	みんなと学ぶ 小学校書写（11 学図）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領の 教科の目標との 関わり	<p>○書き初め、ひらがなのでき方、行書など伝統的な言語文化を取り上げ、書写への関心を高めている。</p> <p>○「丁寧に書く」「正しく書く」「形を整えて書く」「大きさ・配列」「用紙全体との関係」を重点に置き、学習を設定して、学習指導要領に忠実に対応している。</p>
特色	<p>〈基礎的・基本的な知識・技能の習得〉</p> <p>○へんやつくりなどわかりやすいように、色分けをしている。</p> <p>○「穂先の通り道」が明確になるよう、朱墨と薄墨を使っている。</p> <p>○「できたらシールをはろう」「学習をふり返ろう」コーナーがあり、自己評価ができるようになっている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等の育成〉</p> <p>○練習方法を工夫する活動を設定したり、学習内容を振り返るページが分かるようにしてある。</p> <p>〈主体的に学習に取り組む工夫〉</p> <p>○「えんぴつはかせ」「筆博士」「ねこまる」のキャラクターを登場させ、吹き出しから硬筆や毛筆のポイントを児童自ら見つけることができるようになっている。</p> <p>〈硬筆と毛筆との関連〉</p> <p>○毛筆で学習したことを「硬筆に生かそう」で、手紙・文語詩等、硬筆で書く場面が設定されている。</p> <p>〈各領域や他教科との関わり〉</p> <p>○「資料」では、国語だけではなく、関連している教科に、「ねこまるマーク」が付いているので、書写の時間で学習したことを他の時間でもいかせるようになっている。</p> <p>〈話題・題材の選定〉</p> <p>○年賀はがき、掛け軸や巻物を例に挙げ、自分の作品をどのように発表できるかを紹介している。</p> <p>○俳句、短歌、古典、文語詩などを取り上げて、伝統文化に触れさせている。</p>
資料	<p>○毛筆の手本が半紙と同じ大きさになっているので、大きさや位置を視覚的に捉えることができるようになっている。</p> <p>○表紙やイラストの配色を学年ごとのカラーで統一したり、写真を効果的に用いたりして見やすくしている。</p> <p>○必要な訂正を行っている。</p>
表記表現	<p>○始筆の穂先の向きを意識させるために、三角定規を提示している。</p> <p>○用具の名前、準備や後片付けなどを、写真を使って分かりやすく説明している。</p>
総括	<p>○明るく楽しい紙面構成により、児童が興味を持って書写の学習に取り組めるようになっている。</p> <p>○書写の技能を獲得するに至るプロセスが明確であり、どうすればできるようになるのか分かりやすくなっている。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	小学生の書写（15 三省堂）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○子どもの気づきを大切にし、考え、判断しながら書く習慣を付けられるようになっている。</p> <p>○学びのポイントを的確にとらえ、自ら学ぶ力を身に付けることができるようになっている。</p>
特色	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○硬筆・毛筆の入門は、手や指の運動や腕の動かし方を丁寧に扱い、基礎的・基本的技能を楽しく習得できるようになっている。</p> <p>○書き込み欄を豊富に設け、教科書内で技能の習得を図ろうとしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等の育成> ○導入時に、文字を整えて書く方法を考える場面が設けられ、考えたことを実際に書いて確かめることで、思考力・判断力の育成を図っている。</p> <p><主体的に学習に取り組む工夫> ○「考えよう」→「書いて確かめよう」→「確かめ合おう」という学びの手順が分かりやすく示されており、書写の学び方を理解して、主体的な学習ができるようになっている。</p> <p><硬筆と毛筆との関連> ○毛筆の教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆の課題を設け、毛筆で学習したことが硬筆にいきるよう工夫されている。</p> <p><各領域や他教科との関わり> ○「ひろげよう」を設け、他教科の学習や日常生活の中など、様々な書字場面を取り上げ、身に付けた書写技能を、総合的に活用できるようにしている。</p> <p><話題・題材の選定> ○低学年から系統的に手紙やはがきを題材として扱い、読み手を意識した書き表し方について考えられるようにしている。</p> <p>資料</p> <p>○姿勢や持ち方は、イラストで大きく示し、ポイントを簡潔に解説している。</p> <p>表記表現</p> <p>○毛筆の入門期では、穂先の向きや筆圧、腕の動かし方などを、イラストを使って分かりやすく解説している。</p> <p>○毛筆の点画の学習では、穂先に朱色の墨を使い、穂先の通り道を見やすく工夫している。</p>
総括	<p>○学習したことをすぐ書いて確かめることで基礎・基本が確実に習得できるようになっている。学習したことが生活に活用できるような、分かりやすい説明や構成である。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	小学 書写（17 教育出版）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領の 教科の目標との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な書き方を「しょしゃのたいそう」を設けて、体全体で習得できるようにしている。 ○「トライ・あんど・チャレンジ」で、すぐに活用できる教材のポイントを示している。
特色	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <基礎的・基本的な知識・技能の習得> ○「穂先の通り道」が明確になるよう、朱墨と薄墨を使っている。 ○鉛筆や筆の持ち方や姿勢を全学年とも教科書の巻末・折り込みや裏表紙に提示し、確認できるようにしている。 <思考力、判断力、表現力等の育成> ○めあてを示し、学習内容を明確にしている。 ○教材文字の「ためし書き」と「まとめ書き」を比べ、基本に気づき、課題解決学習ができるようになっている。 <主体的に学習に取り組む工夫> ○主体的に学習する能力が高められるように「学習の進め方」を提示している。 ○「課題選択教材」を設け、自ら課題を設定できるようにしている。 ○欄外に漢字のコーナーがあり、書写の時間に習う文字の筆順・読みを学ぶことで、児童が関心を持って美しく文字を書けるようになっている。 <硬筆と毛筆との関連> ○学習の成果を毛筆と硬筆で書くことで、毛筆学習が硬筆学習にいかされるよう工夫されている。 <各領域や他教科等とのかかわり> ○手紙、はがき、提示物、メモのとり方など「トライ・あんど・チャレンジ」で具体的に解説しており、他の時間でもいかされるようになっている。 <話題・題材の選定> ○ローマ字や英語の表記を紹介し、他の文字への関心を持つ工夫がある。 ○「書いて伝えよう」では、本の紹介・年賀状・色紙などを取り上げて、文字を楽しく書くだけでなく、相手に喜んでもらえるようにしている。
	<p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習効果を高めるために、具体物の写真、簡易図を取り入れている。 ○漢字の下にイラストを置き、全体のフォルムをイメージして書かせるようにしている。
	<p>表記表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターや児童を登場させ、正しい筆使いを「とん、すうっ、ぴた」等を用いて意識を持たせるようにしている。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○書写の基礎・基本をおさえ、めあて、ためし書き、考えよう、ここが大切、まとめ書き、生かそう、振り返ろうと意欲的・主体的に学習できるようになっている。

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	書写（38 光村）
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領の 教科の目標との 関わり	<p>○学習活動を通して身につける力を単元名とし、自覚的に知識、技能を習得できるようにしている。</p> <p>○低学年では、姿勢や持ち方と書くこと、中学年では、筆づかいや筆圧、高学年では紙面構成や効率についてなど、学習指導要領に忠実に対応している。</p>
特色	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能の習得></p> <p>○穂先の通り道が明確になるよう、朱墨と薄墨を使い分けている。</p> <p>○文字の原理、原則となる「たいせつ」や自己評価欄の「できたかな」「ふり返ろう」を設け、また、書き込み欄を多くして技能の習得を図ろうとしている。</p> <p>○各学年の巻頭に姿勢、筆記具の持ち方、オリジナル唱え歌を掲載し、基本を定着させている。</p> <p>○巻末の「字形の整え方」も活用し、技能の習得ができるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等の育成></p> <p>○教材導入で課題を発見し、「たいせつ」で理解を深め、確認、活用と課題解決ができるようになっている。</p> <p>○矢印の向きや長さによって、書く方向を意識させたり、シールを使って文字の組み合わせを考えたりすることができる。</p> <p><主体的に学習に取り組む工夫></p> <p>○児童が見通しをもち主体的に授業に臨めるよう、「学習の進め方」や書写の学習を体系化した「学習の見通しをもとう」が設定されている。</p> <p><硬筆と毛筆との関連></p> <p>○「学習したことを生かして書こう」があり、毛筆だけではなく、学習のまとめとして硬筆で書く場面が毎回設置されている。</p> <p><各領域や他教科等とのかかわり></p> <p>○巻末に、日常生活に役立つ原稿用紙の使い方や手紙の書き方などの「資料」を収録し、言語活動に関連づけた国語との関連教材を設定している。</p> <p><話題・題材の選定></p> <p>○筆、紙、墨、硯、鉛筆の作り方等、毛筆、硬筆で書く文化の認識を促す話題や、郷土にまつわる俳句詩文を題材とした教材、発展内容「もっと知りたい」を設けている。</p> <p>資料</p> <p>○具体物の写真、姿勢などが取り入れられている。</p> <p>○色や矢印を手本の中に分かりやすく組み入れてある。</p> <p>表記表現</p> <p>○身近なキャラクターで書くポイントや正しい筆使いを「トン、スー、トン」など擬態語を用いたり、筆圧の強さを番号にしたりして、意識を持たせるようにしている。</p> <p>○用具の名前、準備や片付けなどを、写真を使って分かりやすく説明している。</p> <p>○必要な訂正を行っている。</p>
総括	<p>○書写の授業だけではなく、児童が文字を書くときにどんなことに気を付ければ上手になるのか考えさせるようになっている。「もっと知りたい」では、他教科の学習活動にも役立つ内容が提示されている。</p>

研究調査報告書

教科名（書写）

項目	小学書写（116 日本文教出版）
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領の教科の目標との関わり	<p>○学習指導要領で、当該学年で学習することと示される指導事項を単元名にし、書写の原理・原則を効果的に習得できるようになっている。</p> <p>○単元間の連携・学年間の連携を図った構成になっており、スパイラルに学習を進めることができ、知識・理解を深められるようになっている。</p>
特色	<p>＜基礎的・基本的な知識・技能の習得＞</p> <p>○低・中学年で、姿勢・持ち方を写真で大きく示したり、ポイントを明示したりしている。</p> <p>○第1単元「思い出して書こう」で、前学年の既習事項を振り返る教材が設けられ、基礎・基本の定着・深化を図ろうとしている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等の育成＞</p> <p>○教材導入時に、文字を整えて書くための手立てを考える場面が設けられ、指でなぞったり、違いをさがしたりするなどの活動も組み込まれている。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む工夫＞</p> <p>○「考える→確かめる→生かす」という学習の進め方が設定されており、主体的に見通しをもちながら学習できるようになっている。</p> <p>＜硬筆と毛筆との関連＞</p> <p>○毛筆教材の後に、同じねらいをもった硬筆教材「なるほど書写教室」を設け、毛筆で学習したことが硬筆に生きるよう工夫されている。</p> <p>＜各領域や他教科との関わり＞</p> <p>○「もっと書こう」や「広がる学び」を設け、説明文や意見文など国語の言語活動との関連だけでなく、文字を正しく整えて書くことを様々な場面で活用できるようになっている。</p> <p>＜話題・題材の選定＞</p> <p>○俳句や短歌、古典や文学作品、季節に関連するものを題材として取り上げ、子どもたちの興味関心を高めている。</p>
資料	<p>○姿勢や持ち方は、写真で大きく示し、箸の持ち方との比較や、下から見たところの写真も示し、分かりやすいよう工夫している。</p> <p>○「用具のでき方」や「漢字の始まり」の資料を掲載し、興味・関心をもって、文字そのものについて考えられるようになっている。</p>
表記表現	<p>○身近なキャラクターで書くポイントを示している。また、「トン、スー、ピタッ」等を用いて正しい筆づかいや点画の筆圧をリズムの中で感覚的に捉えられるようにしている。</p> <p>○毛筆の点画の学習では、穂先に朱色の墨を使い、穂先の通り道を見やすく工夫している。</p> <p>○必要な訂正を行っている。</p>
総括	<p>○「考える→確かめる→生かす」の3ステップを基本とし、基礎・基本の定着が図れるよう、ポイント指導がある。</p>